

渥美半島

生態系ネットワーク協議会

豊かな自然をフルに生かして地域の発展へ

協議会テーマ
海と大地の恵みを活かし、人と自然を未来につなぐ渥美半島の創造



渥美半島の自然(田原市提供)

自然の保全はもちろん、地域の発展のために適切に利用する

海あり山ありの豊かな自然に囲まれた渥美半島。広大な干潟をはじめとして、シギ・チドリ類などの渡り鳥の中継地、アカウミガメの産卵の上陸・産卵地でもあります。また、渥美半島の先端部では「自然の再生」をテーマに、この地域固有の海浜性の植生を復元する公園「いらごさららパーク」が整備されています。後藤尚弘会長(東洋大学教授・AKJ環境総合研究所理事)は次のように語っています。「自然の恵みを生かした農業や水産業も盛んであり、地域資源の保全や適切な利用は渥美半島の発展に欠かせません。協議会としても、生きものの生息環境を保全・再生するだけでなく、自然の恵みを観光産業などにフルに生かしたいと思っています」。

Atsumi Peninsula

田原市、豊橋市

渥美半島生態系ネットワーク協議会は「海と大地の恵みを活かし、人と自然を未来につなぐ渥美半島の創造」をテーマに2015年(平成27年)1月に設立。多くのNPOや事業者などが参加し、35団体(2022年(令和4年)1月現在)が活動しています。豊かな自然の恵みを保全・再生するとともに、積極的に利用していく姿勢が特徴的です。



ハギクソウ



アサリ



オオタカ



アカウミガメ



伊良湖岬自然学習バスツアー

専門家が丁寧に教えるエコツアーや自然学習会が魅力

同協議会は、一般市民を対象にしたエコツアーや自然学習会を企画・開催しています。2020年(令和2年)10月に開催したエコツアーでは、伊良湖岬の鳥類や蝶類等について、NPOの専門家が現地ですら丁寧に紹介し、20人ほどの参加者は、渥美半島の動植物の豊富さを改めて感じたそうです。また、2020年(令和2年)12月に開催したフォーラムには一般市民35人が参加しました。瀧崎吉伸先生による渥美半島の植物についての講演や、団体による活動報告、協議会の方向性についての意見交換など、フォーラムは盛況に終わりました。



「環境ボランティアサークル亀の子隊」のタッチングプール

幅広い年代や他の協議会とつながりを広げていきたい

協議会の取組を長く続けていくために、地元の方々世代の人たちに生物多様性保全に関心を持ってもらいたいそうです。渥美半島には「亀の子隊」など若者向けの活動もあるので、期待が持てます。また、同協議会にはNPOが多く、NPO同士、NPOと行政が互いに理解し、尊重し、連携することが活動の継続のポイントだそうです。他の協議会との連携はまだこれからですが、近隣の協議会とは設立の際に協働しているので連絡がスムーズで、他の協議会のフォーラムに参加しています。

地域の生態系

海浜植物(クロマツ、ハマボウフウなど)、アカウミガメ、ゲンジボタル、タカ、シデコブシ、カスミサンショウウオ



キャベツ畑



いらごさららパーク

<おもな活動>

- ・地域の自然を題材とした環境学習の機会の提供
- ・表浜海岸における生物保全対策の推進
- ・三河湾での干潟、浅場、藻場の保全と再生
- ・農地での生物多様性保全の推進
- ・花咲く砂丘の丘
- ・岸森や防潮・防風林の保全・再生
- ・あつみ産食材を用いた食の提供

免々田川のホタル乱舞



【構成団体一覧】35団体

- <大学等 3>
愛知大学、東洋大学、愛知県立福江高等学校
- <企業等 9>
休暇村伊良湖、株式会社JERA 渥美火力発電所、住友林業緑化株式会社、トヨタ自動車株式会社田原工場、渥美商工会、渥美半島観光ビューロー、田原市商工会、一般社団法人田原青年会議所、田原臨海企業懇話会
- <NPO等 19>
あかばね塾、渥美半島の里海を美しくする会、NPO法人渥美半島ハイキングクラブ、NPO法人表浜ネットワーク、環境ボランティアサークル亀の子隊、汐川干潟を守る会、せせらぎの会、CAEA 渥美半島環境活動協議会、田原区、たはら里山の会、田原市小中学校長会、田原市地域コミュニティ連合会、地域自給SATOYAMA、日本スバルティナ防除ネットワーク、NPO法人東三河自然観察会、東三河野鳥同好会、三河生物同好会、免々田川を守る会、NPO法人ゆずりは学園渥美半島の里海を美しくする会
- <農林漁業団体 1>
愛知みなみ農業協同組合
- <行政機関 3>
田原市、豊橋市、愛知県